浦和大里小学校だより

２月号　令和６年２月１日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成

グローブに込められたメッセージ

校 長　　中 野　緑

中庭の冷たい空気の中に、梅の花が満開です。寒さに首をすくめ、足早に通り過ぎる職員は、咲き始めたことに気が付かなかったようで、満開に咲き誇る梅をみて「いつ咲いたの？」と驚いています。

２年生の体育の授業を見学していた時のことです。子どもたちは跳び箱遊びに取り組んでいました。その中で私は、「跳べないんだよな」とつぶやきながらも、熱心に開脚飛びの練習をしている女の子に注目をしていました。助走は適切、踏切もしっかりできている、手をつく場所もよい。しかし、何度挑戦しても跳び箱の上に座ってしまいます。「自分は跳べない」という思い込みからか、ついた手がブレーキになっているようでした。

そこで、踏み切った瞬間、肩を支えつつ軽く腰を押してみました。「跳べた！！」

列に駆け戻って、もう一度跳んでみました。今度は補助するふりだけです。「跳べた！！」

ニコニコ笑顔でハイタッチです。もう、何度やっても、跳べます。次第に動きが大きくなり、着地も美しくきめることができました。

その様子を見ながら、「思い込む」影響の大きさを改めて感じていました。私たちは知らず知らずのうちに、自分の限界を決めてしまっているように思います。「どうせできない」という思い込みです。逆に言えば、「絶対できる」と思い込むことができたら、まだまだ伸びゆく芽がいくつも眠っていそうな気がします。

先日、メジャーリーガーの大谷翔平選手から、「野球、やろうぜ！」のメッセージとともに、３つのグローブが届きました。１月３１日に行われたお話朝会で紹介し、６年生から順番に、各教室に回しはじめたところです。

「二刀流はプロではありえない」という声が大勢を占める中、自分で限界を決めず、投手でもバッターでも一流を目指すという自分の夢を実現した大谷選手。彼のメッセージを、しかと受け止めたいものです。

梅の次は桜でしょうか。校庭の木々は寒い冬を耐えて、春に咲き誇る準備を進めています。子どもたちの可能性の芽も、見えないところでじっくりと力を蓄えているに違いありません。

◆学校ホームページ内において子どもたちの日常を発信しています。「学校生活」をぜひご覧ください。◆